

## 令和4年度第2回マリンオープンイノベーションプロジェクト戦略推進委員会 議事録

日時：令和5年2月9日（木）13：30～15：30

場所：ホテルアソシア静岡3階「橘」

### 1 開 会

（事務局）

定刻となりましたので、ただいまから、令和4年度第2回マリンオープンイノベーションプロジェクト戦略推進委員会を開催いたします。

会議に先立ちまして、静岡県経済産業部長の増田始己から御挨拶を申し上げます。

（増田 静岡県経済産業部長）

静岡県経済産業部長の増田でございます。本日は令和4年度第2回マリンオープンイノベーションプロジェクト戦略推進委員会の開催に当たり、大学、研究機関、企業、経済団体、産業支援機関などから多くの委員の皆様にご出席いただき、誠にありがとうございます。

本委員会は、MaOIプロジェクトの進捗評価を行うとともに、プロジェクトの第1次戦略計画の中間見直しについて最終案をお示しすることを目的として、本日開催させていただいております。

海洋水産分野の産業創出と環境保全を目指して令和元年にスタートした本プロジェクトでは、これまで産学官金の多くの皆様にご参画いただき、県内外の大学、研究機関、企業等と連携した研究開発、事業化の支援に取り組んでまいりました。

後ほど事務局から詳しく御説明申し上げますが、今年度も6件の事業創出や、19件の共同研究の実施など、着実に成果が生まれております。これらの成果は、計画検討段階から御指導賜りました委員の皆様のお力添えあつてのもの、心からお礼申し上げます。

一方、今後も継続的に成果を創出していくためには、委員の皆様からの御意見と、それに基づくプロジェクトの不断の見直しが必要だと考えております。前回お集まりいただきました10月27日の当委員会におきまして、第1次戦略計画の見直しについて御議論いただき、海外の市場を見据えた取組や、県民のプロジェクト参加への期待、MaOI機構の研究力向上、世界との連携に向けた戦略づくりの要望など、多くの貴重な意見を頂戴したところです。

また、先月1月には県民意見提出、いわゆるパブリックコメントの手続を実施し、広く県民の皆様からも御意見を頂戴いたしました。

本日はこれらの御意見等を取りまとめた第1次戦略計画中間見直しの最終案をお示しいたします。改定後の計画に基づき、来年度以降の事業展開を図ってまいりたいと考えております。

委員の皆様には限られた時間ではありますが、ぜひ忌憚のない御意見をいただきたく存じます。本日はどうぞよろしくお願いたします。

### 2 委員紹介

（事務局）

続きまして、委員の皆様を御紹介申し上げます。本日はオンラインでの御出席も含めまして27人の委員の方々に御出席いただいております。時間の都合もございますので、今回新たに委員に御就任いただいた方のみ、御紹介をいたします。たいへん申し訳ありませんが、従来からの委員の皆様につ

きましては、委員名簿にて御紹介にかえさせていただきます。

それでは、新任の委員の方を御紹介申し上げます。恐れ入りますが、お名前を読み上げましたら一言いただけますでしょうか。静清信用金庫経営相談部長の多々良和明様でございます。よろしくお願いいたします。

(多々良委員・静清信用金庫経営相談部長)

このたび委員を拝命いたしました静清信用金庫経営相談部長の多々良でございます。これまで川本がたいへんお世話になりました。引き続き私多々良も皆様の少しでもお役に立てればと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。なお、東海大学海洋学部長の齋藤寛様におかれましては、15時ごろまでの御参加とお伺いしております。また、しずおか焼津信用金庫お客様サポート部長の岩崎浩季様は御欠席ということではございますけれども、調査役の稲森智志様が御参加くださっておりますので御報告申し上げます。

### 3 議 事

(事務局)

それでは、議事に移ります。これ以降の議事進行につきましては、橋本委員長にお願いいたします。橋本委員長には、初めに御挨拶をいただき、以降の進行をお願いできればと存じます。よろしくお願いいたします。

(橋本委員長)

皆様、こんにちは、橋本でございます。今日はオンラインも含めまして多数御参加いただきましてありがとうございます。

今回は進捗評価ということで、パブコメも済んだあとに中間見直しをするということでございますが、むしろ中間見直しというよりは、今後の進め方等につきましても、今日お見えの方々から忌憚ない御意見をいただければと思います。後半の方で時間がありましたら御紹介しますけれども、また来年度に向けて色々な動きがございますので、それに関しても御協力、御支援を賜りたいと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。

それでは、プロジェクト第1次戦略計画の進捗評価と中間見直しについて、事務局からまとめて御説明いただいて、その後意見交換したいと思います。では、よろしくお願いいたします。

(遠藤 静岡県経済産業部産業革新局産業イノベーション推進課長)

静岡県経済産業部産業革新局産業イノベーション推進課の遠藤と申します。よろしくお願いいたします。

説明資料の方ですが、まず「資料1」というものをお開きいただきたいと思います。表紙が「平成4年度Ma0Iプロジェクト進捗評価について」になっているものでございます。

ではまず2ページ目でございますけれども、本プロジェクトの事業展開イメージでございます。これは今までこういった委員会のたびにお示したものと大きな違いはございません。

続きまして3ページ目でございます。MaOI 機構の推進体制についてです。10月に開催したときにも少々説明申し上げましたが、本年度 MaOI 機構は研究所と事務局に大きく体制を仕分けして構成しまして、事務局の方にコーディネーター部、事業部、つなぐ会事務局、総務部という4部を置く体制になってございます。

続きまして4ページ目をお願いいたします。今年度の活動状況でございます。前回10月以降で大きなものとしては、11月に本プロジェクトの成果発表会を開いたこと、あとは海外との交流ということで、11月の終わりにはサンディエゴでの BlueTechWeek に参加、また湾クラブの総会でカンボジアに行ってみようとしたところでございます。

1枚スライドが飛んでしまっていますが、ここからは柱ごとに今年度行ってきたことの御紹介でございます。初めに戦略のⅠ、「知」の集積とオープンイノベーションの拠点形成ということで、MaOI フォーラムですとか MaOI サロン、こちらを3回ずつ開催してございます。本年度中にもう1度ずつ開催したいと考えております。11月には先ほど御説明しました研究成果発表会を行ったところでございます。あとは今年度の前半の方でございますけれども、東海大学様ですとか、JAMSTEC 様と連携協定を結ばせていただきました。

続きまして資料の6ページでございますが、「知」の集積とオープンイノベーションの拠点形成で今年度新たな取組として行ったことの御紹介でございます。橋本委員長を中心にブルーエコノミー研究会を行っていただきました。こちらは本プロジェクトの地域経済への波及効果につきまして、定量的指標による経済社会へのインパクトの評価を試みたものでございます。今年度は2回ほど開催しましたが、来年度以降も引き続きこの研究会を続けてまいりたいと考えております。

続きまして7ページ目でございます。戦略の2つ目、オープンデータ・オープンサイエンスの推進ということでございまして、今年度、取組実績の真ん中あたりを見ていただきますと、海洋微生物ライブラリーにおいて2件の商品が販売開始となったところでございます。また、その下でございますが、東海大学との連携協定に基づきまして、駿河湾の深海環境に関する共同研究を開始いたしました。

なお、真ん中の段の2、取組実績のところでございますが、海洋生物資源ライブラリーの利用件数は年間11件ということで、今年度の目標値10件を上回っておりますので、本取組がおおむね順調に進捗しているというふうに評価しておるところです。

オープンデータ・オープンサイエンスの推進で、若干事例の御紹介でございますけれども、BISHOP の活用としまして、今年度活用例のところでございますけれども、内浦の養殖アジが大量にへい死するということがございましたが、この原因について、海況データを分析しまして、相関関係を見つけたところでございます。

続きまして8ページにつきましては、海洋微生物ライブラリーを用いまして商品化した商品の御紹介でございます。まだどうしても食品中心になってしまっておりますが、これからも引き続きこういった商品化、事業化に取り組んでいきたいと考えております。

続きまして戦略のⅢ、拠点・プラットフォームの整備と活用でございます。こちらにつきましては、今もまだ完成はしておらないんですが、真ん中の取組状況のところでございますけれども、温水利用研究センター沼津分場の量産実証施設を整備しているところでございます。取組実績としましては、取組実績の2の1、表のところでございますが、データベースの利用件数12,002pv ということで、今年度の目標値であります3,100pv を大きく上回りまして、こちらも順調に進捗しているのではないかと評価しているところでございます。

その次のページが、今申し上げました温水利用研究センターの沼津分場でございます。網かけにし

であるところが量産実証棟でございます。こちらについては来年度から先行活用する予定でございます。

続きまして戦略のⅣ、研究開発領域の重点化でございます。こちらは従来からと同様、シーズ創出研究ですとか、MaOI 機構と大学の研究機関が連携した共同研究を実施しております。実績としましては、2の1取組実績指標というところがございますけれども、プロジェクトにおける共同研究等の件数、累計51件となりまして、目標数の30件を上回っております。おおむね順調に進捗しているのではないかと考えております。

ここからは戦略Ⅳの研究開発領域の重点化、具体の事例でございます。まずシーズ創出研究でございますけれども、今年度も新たに2件の研究を開始したところでございます。もう1つ、研究開発領域の重点化についてございまして、BISHOP 研究でございます。このあと詳しく御説明いたしますけれども、共同研究の○の2つ目ですね、本県産の水生生物の全ゲノムの解読、こちらを水産海洋技術研究所と共同で成し遂げたところでございます。

その全ゲノムの解析につきましては、その次のページに若干詳しく新聞記事等も掲載させていただきました。サクラエビ、シラス、タカアシガニ、キンメダイの全ゲノムの解読ということに成功いたしました。こちらは世界で初の事例ということでございます。将来的にはこの情報を活用した新しい資源管理や養殖の実現、こういったものを行っていきたくと考えております。

その次のページは研究開発の重点化のうち、海洋微生物ライブラリーの微生物等を用いた食品開発技術の研究の実例でございます。ラーメンですとかナチュラルチーズ、サワーエール、このあたりを商品化したところでございます。

続きまして戦略のⅤ、産学官金連携による産業応用の推進でございます。こちらにつきましても、取組状況としましては、マリンオープンイノベーション事業化促進助成ですとか、海洋技術開発促進助成、こういったものを継続して実施しております。また、昨年度からフィージビリティ・スタディの補助制度を設けまして事業化を支援しているところでございます。今年度実績については、取組実績の2にあるとおりでございます。プロジェクトの事業化の件数累計14件ですが、こちら目標の9件を超えまして、おおむね順調に推移しているところでございます。

幾つか事例の御紹介でございます。まずはマリンオープンイノベーション事業化促進助成でございますけれども、本年度も表の一番下でございますが、海洋性素材による機能性表示食品の開発ということで、新たに採択して研究を進めているところでございます。

もう1つ事例の紹介でございます。海洋技術開発促進助成ということでございますが、これは今年度は一番下の2つ、海水からのマグネシウム・カルシウム回収、あとは超小型のAUVとデータ解析システムの開発といったものを新たに始めました。こちらについては平成3年度採択テーマの丸の2つ目でございますけれども、安全装置付きの食品加工バンドソー、こちらを昨年より研究を進めて開発しているところで、今年度販売直前まで行っておりまして、今年度もしくは来年度から販売予定というところまで来ております。

その次のページはフィージビリティ・スタディの事例でございます。3年度は5件、平成4年度は4件の実績を上げております。

続きまして戦略のⅤ番目、産学官金連携による産業応用の推進でございます。まずこのページにはMaOIプロジェクトによる事業化の成果の一覧を書いてございます。前回もちょっと出しましたが、食品が多いですけれども、このあたりにも先ほど御紹介しました安全装置付きの食品加工バンドソー、成果ナンバー14番ですね。実機のテスト中で来年度販売予定となっております。

続きまして、産学官金連携による産業応用の推進のもう1つの側面でございますが、MaOI 機構のコーディネーターによるマッチングの促進、こういったものの事例を御紹介してございます。さまざまなマッチング例をつくっておるんですが、今年度の代表的な事例で言いますと、企業マッチング例の下から3つ目、NTT グループの無線制御水中ドローンの公開実証実験、こちらについて清水港で実証試験を実施いたしました。あとは今年度の MaOI 機構が注力している点といたしましては、金融連携事例、一番上のぽつですが、金融機関と連携した企業訪問、こちらにちょっと注力しているところでございます。

次に戦略のVI、人材育成・地域づくり・世界発信についてでございますけれども、取組実績中1の取組状況のところを御覧ください。県内での産業展示会や国際展示会への出展、こういったものに取り組んでまいりました。また、その下にありますが、海外の海洋産業クラスターとの情報交換、あるいは連携体制の構築、こうしたところに取り組んできたところでございます。このあとはこの取組をちょっと詳しく御紹介いたします。

次のページは「美しく豊かな静岡の海を未来につなぐ会」の活動状況、また今年度から設置しました「美しく豊かな海保全基金」この2つの状況の紹介でございます。海の保全基金につきましては、今年度から開始しまして、12月末時点で約200万円の寄付を頂戴して、活動しているところでございます。

あとはその次のページは海外への情報発信の状況でございます。8月には海の環境保全をテーマにした韓国で行われたフォーラムに参加いたしました。また11月にはサンディエゴで行われました BlueTechWeek に参加したところです。12月には湾クラブの総会がカンボジアで開催されましたが、こちらに出展するとともに、その隣国でありますシンガポール、こちらの関係機関を訪問したところです。

その次は国内の事例でございます。磐田市で開催されております産業振興フェア in いわた、こちらに出展をいたしました。先ほど紹介した安全装置付きバンドソーを開発した秋山機械様、この事例の紹介等をしたところでございます。右側につきましては、前回は御紹介しました BioJapan でございますが、こちらはファルマバレーセンターと共同出展をしたところでございます。

最後に情報提供でございます。スルガベイ・シミュレータ、駿河湾における生態系の保全とかそういった部分の研究を促進するために開発したシミュレータでございます。今年度から実際に活用が始まったところです。詳細につきましては、まだこのあとで研究内容の発表会が行われると聞いておまして、ちょっと情報がありませんけれども、本年度につきましては3件ほど活用したというふうに聞いております。来年度も同様に活用希望を募集する予定だというふうに聞いてございます。取組状況については以上でございます。

一旦お戻りいただきまして、資料の2を御覧ください。横版のカラフルな資料でございます。前回10月の委員会の際にお示したものと大きく変わってはございません。10月の委員会の際に委員の皆様から頂戴した意見の反映をしたものとなっております。具体的には右側の新たに追加する項目、上から3つ目のグリーンの部分のところですけども、赤字で書いてございます養殖業につきまして、質の向上の視点も大事という御意見をいただきまして、それを加えてございます。

そこから2つ下に行ってくださいまして、水色のところでございますが、海外展開の水色の中の3つ目、販売チャンネルの確保につきまして、国内外のという幅広い視点も重要ではないかという御意見を頂戴しましたので、そこを加えてございます。

次に一番下の黄色い枠の3つ目の赤字のところでございます。県及び関係者の皆様に幅広く参画

をいただくべきだという御意見を頂戴したことを反映してございます。

また一旦戻っていただきまして、すみません、資料が変わって申し訳ないんですが、資料の3をお願いいたします。ちょっと小さくて申し訳ないんですが、お手元で大きくして御覧いただければと思います。パブリックコメントを1月の10日から1月30日まで実施いたしまして、お2人の方から意見をいただいたところでございます。

1件目につきましては、特許戦略についての御意見を頂戴しました。現状といたしましては、第1次戦略計画の中で知財管理については既に明記したところでございます。一方で、特許戦略という話になりますと、積極的な特許の活用、そういった部分についても入ってくるのかなということも考えておりますので、県の考え方、真ん中ちょっと下でございませけれども、「今後特許戦略につきましては、技術開発状況を見ながら議論してまいりたいと考えております」。そういったことを踏まえまして、修正等のところですが、「御意見を踏まえまして引き続き検討します。専門家と相談の上、次期計画への記載等について検討」とさせていただきたいと考えています。

御意見の2つ目ですが、こちらは大きく3つの意見をいただきました。①につきましては、よくやっているというお褒めのコメントかなと思いますので、引き続きプロジェクトの成果創出に取り組んでいきたいと考えます。

②につきましては、活動状況、この御意見を頂戴した方はよく確認してくださっているようなんですが、②の3行目くらいからでしょうか、エリアが清水区を含め、静岡市に関連するものにちょっと偏っているかなというようなコメントを頂戴したところですが、これにつきましては、実際これまでも浜名湖ですとか、沼津や熱海等においても取組をやっているところではございます。来年度以降は県西部、東部、伊豆地域の取組をさらに充実させていきたいと考えております。

③でございませけれども、こちらの方はちょっと長い御意見ではあったんですが、一番最初の項目ですね、「県内全市町、全県民が参加する政策があると理解しやすい」、例えば6R県民運動の推進ということでございましたので、環境保全に関する活動、現状でも6R県民運動と連携をさせていただきますので、環境に関する活動につきましては、引き続き県として6R県民運動を実施する等、県民の皆様の参加を促す取組を推進してまいりますといたしました。

総括といたしましては、別に応援してくれているような御意見と理解したものですから、御意見を参考に引き続きプロジェクトの推進に取り組んでまいりますというふうにとまとめさせていただいて、この今御覧いただいている資料3をパブリックコメントの意見対応表として県のホームページの方に公表したいと考えております。

以上、たいへん駆け足で申し訳ございませんでしたが、事務局からの説明は以上でございませ。よろしく願いいたします。

(橋本委員長)

どうもありがとうございます。まず、もしここまでで御質問があれば先にお受けいたしますけれども、よろしいでしょうか。インターネットの方、御発言いただいても結構です。お手を挙げていただいても結構です。よろしいでしょうか。

それでは、例によりまして委員の数がこの委員会多いので、順番に御意見を伺います。まずはこの時点で途中で御退席される予定等もございませるので、もし先に御意見、コメントいただけるのであれば挙手をお願いしたいと思います。

(齋藤委員・東海大学海洋学部長)

東海大学の齋藤でございます。今説明いただいて、順調に進んでいるというふうな受け止めであります。またパブリックコメントでもこのように書かれています。この戦略Ⅰから順番にⅥまであるんですが、これ下からどんどん積み上げて上に行くのかなというイメージなんですけれども、最後のⅥのところですね、人材育成というところで、人材育成という捉え方が幾つかあるかと思うんですけれども、現在のところは体験教室等、割と子供たちを対象にしているなと思うんですが、今後はやはり研究ということを考えていきますと、大学生であるとか、大学院生であるとか、そういうところの人材育成ということも意識していただけるとありがたいなと思います。

特に今 MaOI の方の施設がマリビルの中で、かなり限られたところですが、これだけ色々と展開されていますので、ぜひもう少し広いスペースを確保していただいて、常時研究者、あるいは企業の方がいらっちゃって、そういうところに大学の学生、あるいは大学院生がインターンシップじゃないんですけれども、そういう誰でもというわけじゃないんですが、ある程度許可された者がこちらに来て、実際の会社の方、研究者と話ができるというようなチャンスがあるとありがたいなと思っています。大学ではもちろん研究をやっているわけなんですけれども、大学の教員がいるよりも、実際の現場でいらっしゃる研究者の方のお話を聞くというのも、非常に重要な勉強になるんじゃないかなと思っておりまして、ぜひ最終的な人材育成というところでは、そんなところも御検討いただければと思います。以上です。

(橋本委員長)

齋藤先生、ありがとうございます。確かに MaOI 機構手狭なので、渡邊専務、何かコメントありましたら。

(渡邊 MaOI 機構専務理事兼事務局長)

マリンオープンイノベーション機構の専務理事渡邊でございます。MaOI-PARC の関係についてもコメントいただきましてありがとうございます。御指摘のとおり、そもそも共同ラボという位置づけでございまして、私どもが研究として使う、あるいは共同研究で御利用いただく以外にも、有償で御利用いただけるというコンセプトで取り組ませていただいていますけれども、お陰様だと申しませうか、機器類もそれなりに導入していった結果として、正直言って手狭感は否めないところがございます。

一方で、御利用の皆様からは、利用者相互のコミュニケーションを図ることで、お互いにもっと知り合って、新しいことも生まれる可能性もあるよねという御指摘をいただいたり、また私どもの作業、例えば eDNA の解析や微生物の解析等々で、作業レベルのところでは学生の皆様に御参画をいただいて経験を積んでいただくということもできるのではないかとといった議論もしております。今の御指摘を踏まえまして、今の範囲の中でできることをまずは充実させてまいりまして、今後の施設の拡張につきましては、ぜひ県の方に御検討いただきたいと申し上げていきたいと思っております。

(齋藤委員・東海大学海洋学部長)

よろしく申し上げます。

(橋本委員長)

東海大学とは連携協定がありますので、ぜひ学生を参加させたプロジェクトを御相談させていただければと思います。どうもありがとうございます。ほかにこの時点で御発言がありましたら、ぜひお願いします。

(梶原委員・東京工業大学生命理工学院長／教授)

東工大の梶原です。先ほど東海大学の先生からお話がありましたように、順調に進んでいるというお話で聞かせていただきました。これは前回もある程度お話を聞かせていただきましたが、特にその中で今気づいたというか、少しコメントさせていただくとすると、世界発信、海外への情報発信というところで、いろんなところで情報発信をされているけれど、やはり情報発信するだけでなく、将来的には海外展開、それから海外との連携ということも、今後なっていくべきではないかなと思いますので、そこでやられた情報発信のフィードバックというのと、今後のそこに向けての展開というもの、もっと広い意味での共有というか、広く共有していただきたいと思います。例えば韓国なりサンディエゴなり、世界を見ているのかもしれませんが、その地域での産業展開や連携をしていくということになれば、どういうもののニーズがあるのかとか、そういった情報もこちらの方にフィードバックしていただいて、最初に静岡県の産業育成というところで今やられていると思うんですけども、それが今度サンディエゴとかアメリカ、そして韓国、東南アジア、こういったところでのマーケットを今度そこから展開していけるようなつながりというのが見えてくるといいと思うので、ここにせっかく発信しているので、そこからのフィードバック等をこちらに流していただいて、こういう需要があったとか、方向性としてこういうふうになっているんだということをごこちらに回していただければ、また研究者は研究者で、じゃ我々のこういうシーズがある、それだったらこっちとつながるんじゃないかということで、外に広がっていくんじゃないかなと、そういうことを今後取り組んでいただけると、まず静岡が発信で、世界に展開するというのが見えてくるんじゃないかなというふうに思いますので、少し今後御検討いただければと思います。

(橋本委員長)

ありがとうございます。そうですね、海外展開は当初からかなり意識はしていますけれども、具体的な動きは年1回のサンディエゴとか、それから先ほどの韓国とかですので、もう少し広いネットワークを検討したいと思います。

(梶原委員・東京工業大学生命理工学院長／教授)

静岡はこうやっているんだという情報発信としては十分いろんなところでやられて機能していると思うんですけども、それだけではもったいないので、そこからのフィードバック、そしてそこへの展開ということもお考えいただいて、進めていただければなと思います。どうぞよろしく申し上げます。

(橋本委員長)

わかりました、ありがとうございます。ホームページも日本語でしか整備できていない部分があると思いますので、そのあたりも宿題だと思います。ほかにこの時点で何かコメントいただければと思います。手は挙がっていないですね。



では、恒例によりまして名簿順に御意見を賜りたいと思います。1人数分しかないと思いますが、ぜひ御参加の方には一言ずついただきたいと思います。前回後ろからやりましたので、真ん中からお願いしてもよろしいですかね。名簿ですと産業界のところから、産業界、金融支援機関、自治体、でまた学に戻りたいと思いますが、よろしいでしょうか。では、急な御指名でたいへん申し訳ございませんが、よろしければ産業界の、増元専務理事からお願いしてもよろしいでしょうか。

(増元委員・静岡県水産加工業協同組合連合会専務理事)

県の水産加工連の増元と申します。前回、地元の金融機関との連携ということをお願いいたしました。早速地元の信用金庫をMaOI機構の方が回ってくださりまして、それを受けて今度焼津のしずおか焼津信用金庫様の方が3月に魚屋さん関連を集めて、そういう補助金、こんなものが使えますよとか、こんな成果が出ているようですよという加工屋さんプラスになるようなものを前面に出して、このMaOIの説明会を開催するというところで、非常に早い動きをしてくださっているなど感謝しております。

それはそれとして、ちょっと教えてほしいんですけども、スルガベイ・シミュレータを活用した研究支援の実施というのがございますけれども、このスルガベイ・シミュレータというのが、今どの程度の完成具合なのか、少しお聞かせいただけるとたいへんありがたいなと思います。

(事務局)

直接的に開発に関わっていましたが、本県のくらし・環境部というところなんですけれども、一応一通りある程度のデータを入れれば、その結果、どういうふうに変わっていくのかというシミュレートができる。例えば山とか海ですとか、そういった部分のデータを入れますと、それが海洋に及ぼす影響はこんな感じだというのがシミュレートできるようになったとは聞いております。ただ、いかんせん海域ベースの方は、変動要因が多いといいますか、影響する範囲ですとか、影響する要素がたいへん多いので、どの程度が正確に反映できているかという点、それはこれから実際に活用しながらかなというふうには聞いております。以上です。

(橋本委員長)

ありがとうございます。よろしいでしょうか。

(増元委員・静岡県水産加工業協同組合連合会専務理事)

今の話ですと、海に流れ込む部分のところについてはおおよそ、で海域については変動要因が大きいですので、信頼性についてのこれから検証、そういう認識でよろしいですか。

(事務局)

そのように聞いております。

(増元委員・静岡県水産加工業協同組合連合会 専務理事)

ありがとうございます。

(橋本委員長)

シミュレーションは非常に重要なので、このシミュレータも含めて、MaOIでも本格的に取り組んでいきたいと思えます。

(守屋委員・理化学研究所光量子工学研究センター光量子制御技術開発研究チーム専任研究員)

理研の守屋ですけれども、意見をこのあと来たときに言おうと思っていましたが、シミュレータについて意見を言おうと思ったので、今のほうがいいですか。

(橋本委員長)

ありがとうございます。ではお願いします。

(守屋委員・理化学研究所光量子工学研究センター光量子制御技術開発研究チーム専任研究員)

今の御質問に非常に関係するのですが、今でき上がったものを研究者に利活用してもらうというのは、もちろんたいへんよい方向性であることは僕も完全に同意するのですが、今質問に対するお答えにありましたように、例えば海域データに関しては、これからさらにブラッシュアップしていく必要があるというふうなこともありますし、僕自身は非常に興味がある陸と海の関係に関しては、有機農法の拡大と土壌の豊かさの相関関係だとか、そういう有名な例だけではなくて、実際数値モデル自体を検討して、再実働するというトライアンドエラーというのがどうしても必要になってくると思うんですね。実際にユースケースで対応していくというところでは、もうでき上がったということではなくて、スルガベイ・シミュレータの開発チームをまず維持していく必要があると思うんです。

例えばMaOIとAOIの連携研究プロジェクトみたいな形で、この開発チームを維持すると同時に、この開発チームとの共同研究という形で研究を進めるという、いわゆる研究者にシミュレータを貸し出すというイメージではなくて、開発チームと連携して、一緒にそのシミュレータ自体をブラッシュアップしてやる研究という視点はあってもいいと思えたので、コメントをさせていただきます。

(橋本委員長)

ありがとうございます。

(守屋委員・理化学研究所光量子工学研究センター光量子制御技術開発研究チーム専任研究員)

あともう1つ全然違う視点でいいですか。

(橋本委員長)

どうぞ。

(守屋委員・理化学研究所光量子工学研究センター光量子制御技術開発研究チーム専任研究員)

これは本当にジャストアイデアなんですけど、観光との連携という視点があってもいいのかなとちょっと思いました。例えば先ほど、県東部はあんまり出てこないみたいな話もありましたけど、伊豆半島部なんかではすごくダイビングが盛んで、僕もファンダイバーの一人なんですけども、例えば土のサンプリングなんていうのは、一般の市民にいろんなサンプル採ってもらいたいなことを東北

大学がやっていたりとか、そういう例があるんですね。

例えばファンダイバーに水採ってきてもらってとか、または付着生物採ってきてもらってみたいな、サンプリングとファンダイビングのマッチングというのは、例えば人材育成と情報発信、広報、または教育なんかと絡むと思うんですけども、いろんな面でおもしろいかなというふうに思ったので、じゃあどうするんだ、おまえやれと言われたら困るんですけど、ちょっと考えたので、一応ここでコメントさせていただきます。ありがとうございます。

シミュレータについては、僕すごく興味があるので、実際に何か議論する必要がある場合には、御一緒に議論させていただければと思います。よろしくをお願いします。

(橋本委員長)

ありがとうございます。

(竹山委員・早稲田大学 理工学術院 教授／マリンバイオテクノロジー学会 理事)

早稲田大学の竹山です。シミュレータの話ですが、作成され経緯や現状の利用状況について情報が必要かと思います。世界規模で環境シミュレーションが進められているなか、技術も進化してます。ローカルなニーズに特化したシステムだけでよいのかは検討事項かと思います。シミュレータの用途検討など再評価も必要と感じます。今後、シミュレータの拡張も含めグローバルスタンダードでの評価を受けながら社会情勢も考慮した利活用に関して関係者で話し合いが必要かと思います。

(橋本委員長)

ありがとうございます。特に昨今議論している海洋ということだけでいいのか、水はどうするんだ、淡水とか、静岡全体を見ると、浜名湖という非常に特異な水系の研究材料という失礼ですけども、そういう実際の場合もありますので、その辺のシミュレーションも含めて、今後大きな研究課題だなと思いますし、これはすぐに実際に実用という意味では意義があるなというふうに思います。

それからあと、先ほどのダイバーの話ですけども、これはぜひ、全部守屋先生に丸投げするつもりはございませんけれども、静岡県全体としてこういう観光と海洋というのは、非常にもともと重要なテーマですので、またNPOとか活用しながら検討していただきたいと思います。御指摘どうもありがとうございます。

(矢澤委員・Ma0I 特任コーディネーター／早稲田大学ナノ・ライフ創新研究機構 規範科学総合研究所 ヘルスフード科学部門 部門長)

早稲田大学の矢澤です。ファンダイビングの話なんですけれども、恐らくファンダイビングの指導者は、環境に絶対触ってはならない。海底の石ころを採って、裏に何かあって見てという、その石ころの場所も元の位置に戻さなくちゃいけない、恐らくファンダイバーにお願いするというのは、それに逆行しかねない。サンプル採るならサンプル採る人たちに任せなきゃいけないかなという、ちょっと浅薄な知識によるんですけども、そのあたり詳しい方ありましたら、ぜひお願いします。

(守屋委員・理化学研究所光量子工学研究センター光量子制御技術開発研究チーム専任研究員)

その辺は漁業法とすごい絡みがありまして、基本的には採捕許可がないと、アクアラングをつけた、要は水中で呼吸できる状態で物を採捕しちゃいけないという決まりが一応あるんですね。それは漁

協との関係で解決は可能で、例えば遺跡調査なんかの場合には、実際にファンダイバーがそういうふうなサンプリング、物を採ってくるということもやっている現場があったりします。なので、解決不可能な問題ではないです。漁協とダイビングの業界がある程度和解といいますか、お互いにわかり合って、かつ規制当局である水産当局との話し合いがきちんとなされていれば、これは可能な話だと思われれます。実際僕 3. 11 のときにサンプリングするときに、その交渉もしたんですけども、お互いに理解が進めば、すごく三方良しでうまく進む話だと思います。

(増元委員・静岡県水産加工業協同組合連合会 専務理事)

今の話ですけれども、私が水技研の所長をやっているときに、現実に伊豆の東伊豆町、あそこでは地元の漁協がダイバーに磯保持、テングサが有名なところなんですけれども、そこにテングサ以外のものが生えると、テングサの漁獲量が減るという中で、ダイバーに協力を願って、そういった取組をしているという事例もございますので、今お話があったとおり、県行政の水産局、それから地元の漁協、調整ができればこれは十分可能だと思っております。

(橋本委員長)

地域地域でやっていくということですね。貴重な御指摘どうもありがとうございます。ほかに今の関係で何かございましたら。よろしいでしょうか。では次の論点があるかもしれませんので、勝亦様、よろしくをお願いします。

(勝亦委員・はごろもフーズ株式会社開発部アドバイザー)

はごろもフーズの勝亦です。いつも同じような話になってしまって申し訳ないですが、産業界という中で、特に我々はメーカーということで、物をつくっていく会社で、その中で何をもって成果ということになると、やっぱり最終製品をつくるというところまで持っていけないといけないということで、今回御報告の中で幾つか製品ができ上がったよというお話がありましたので、ここで最後じゃなくて、やはりどれだけ売るかということが最終的には大事になってくると思うんですね。ですから、こういうものをなかなか個々で売っていくというのは難しいかと思うので、一斉にバックアップしていくというか、お披露目ができる場所みたいなものをぜひつくっていただけたらありがたいなと思います。以上です。

(橋本委員長)

ありがとうございます。専務何か知恵がありますか。

(渡邊 MaOI 機構専務理事兼事務局長)

御指摘ありがとうございます。我々もやっていって形が見えてくると、最終的には販売をしていただいて、利益を回収していただいて、それをまたさらに次の投資に向けていただく、そこまで持っていけないと意味がないことと思っています。これはこの MaOI のプロジェクトが始まった当初から御指摘もいただいていることではあります。では、そこに今手が打っているかということ、なかなか模索している途中でございます。マーケットの側の御意見をさまざまに伺う、あるいはそのマーケット側の皆様と一緒に商品開発を行う、その仕組みができないかということで、色々と模索をしているところでもございまして、逆に第一線で御活躍の皆様からの御意見、御指導等を賜れば、非常にありがた

いと思っておりますので、今後ともぜひよろしくお願いいたします。

(勝亦委員・はごろもフーズ株式会社 開発部アドバイザー)

たびたびすみません。今の話の中でありました MaOI の方で、ある程度例えば新商品が数が出てきた段階で、例えばそこで MaOI 機構としてフーデックスであるとか、スーパーマーケットトレードショーであるとか、そういったところのブースを MaOI 機構が確保して、そこに開発した商品なんかの展示、PR といったようなこともまたできれば、開発した商品を広めるのに、要は小さい業者ですと、売り込みなんかもなかなかたいへんですので、そういったところにブースがあると参加しやすいのかなというように思います。またそういったところも御検討いただければと思います。

(渡邊 MaOI 機構専務理事兼事務局長)

ありがとうございます。我々も色々なブースを、ようやく今年になってあちこちに出し始めたという中で、そういったところに向かっております。今日御参加されている矢澤先生が御指導されているおやつ研究会、熊本の皆様が連携をして、一定のコンセプトを持った商品開発をされていらっしゃる。それを1つのブースの中で皆様が展示をされていらっしゃる、そういった事例も勉強させていただいております、今の御意見も踏まえて、私どもの方でどうできるのか、また考えてまいりたいと思います。御指摘ありがとうございます。

(橋本委員長)

矢澤先生もぜひよろしくお願いいたします。ほかになれば、次は加藤様、よろしくお願いいたします。

(加藤委員・いなば食品株式会社執行役員／商品開発部長)

いなば食品の加藤でございます。今お話をお伺いして、具体例も増えていまして、正直、我々企業活動する中で、なかなか優占順位が、商品開発、販売という中で、もう少し参画していきたいというふうに思いますが、ちょっと人の問題等があるのが現状です。

実際今我々の問題点は、御存じのとおり、非常に原料の値上げといった問題と、もっと言うとやはり資源の問題ですね。我々マグロ、カツオというものを使っていく中で、今後資源の問題が非常にやっぱりより一層厳しいと、考えていかないといけないと考えております。そういったところに観点を置いて、このプロジェクトに、産業界で貢献できるような何か形ができていくといいなと改めて痛感しております。

そういった中で、こういったお話を今聞くことはできるんですけども、コロナがこの間あって、なかなかそういったことを情報共有する場も少なく、これからもっともっとできるんじゃないかと思えます。

先ほど勝亦様おっしゃった製品化のお話でありますけれども、こういうことをやっているんだということを知る場、そういったものが展示会等、交流する懇親会とか、これから講演会とかもあるかもしれませんが、そういったものに企業として参加していければ、一層理解が深まると同時に、また次のステップに行けるのかなというふうに考えておりますので、そういった情報発信の場ですね。コロナは決してまだ解決していませんけれども、今後次のステージに入るにおいては、そういった機会づくりに次のステップに向けていけたらいいなと考えております。引き続きよろしくお願いいたします。以上でございます。

(橋本委員長)

ありがとうございます。昨今ブルーエコノミーとか言っているのは、まさに持続可能な海洋という概念ですので、今おっしゃった資源という問題ですね、非常に重要な視点だと思いますので、引き続きその辺も検討していきたいと思います。どうもありがとうございます。

それでは引き続き中村様、お願いできますでしょうか。

(中村委員・株式会社鈴与総合研究所管理部長)

中村でございます。よろしくお願ひいたします。はごろも様、いなば様と同様に弊社鈴与総合研究所は清水食品のいろんな分析を行う研究施設ということで、産業界という位置づけでいるわけなんですけれども、全くはごろも様、いなば様がおっしゃるとおりで、私たちも清水食品という立場から見ると、もしくはSSKフーズという立場から見ると、製品化、商品をいかにしていいものをつくって、いいものを消費者に提供できて、そして会社の利益につなげていくかというところが、まず第1の視点になるのではありますけれども、一方で、先ほど東海大学の齋藤先生がおっしゃったように、このこういった機関というのは、産業界だけではなくて、有識者、研究者という方たちもたくさんいる中で、やはり人材育成につなげるのが非常に重要ではないかなというような意識をしております。

例えば弊社ですと、清水食品の商品の分析を行ったり、菌数とか、どういった菌が含まれているかというようなこと、そういったことも調べるわけなんですけれども、そういうところの即戦力になるような人材を育成できれば、それが回り回ってMaOIのプロジェクトの中でできてくる1つの創出物というか、そういったものになるのではないかなと思います。

それが静岡県の食品産業、ほかにも産業色々ありますけれども、ほかの例で言うと再生エネルギーとか、そういったところにも関与してくるかと思うんですけれども、そういうところにプロジェクトが中心となって、最初の第一歩となって、そういう役割を果たしていければいいのかなという感じを受けております。すみません、もう産業界の意見としては、ほとんどはごろも様、いなば様がおっしゃったとおりだと思いますので、少しずれてしまいましたが、私の意見は以上です。

(橋本委員長)

ありがとうございます。人材育成、引き続きやっていきたいと考えております。

次、静岡県中小企業団体中央会の田中様、お願いできますでしょうか。

(田中委員・静岡県中小企業団体中央会専務理事)

静岡県中央会の田中と申します。本日はありがとうございます。先ほど資料1の御説明を伺って、印象でたいへん恐縮なんですけど、例えば養殖技術の開発というのが、オープンイノベーションのテーマとして掲げられておりますし、これからやはりそういう意味では持続可能性ということを考えて、この養殖技術の開発というのは、これからやはり欠かせないかなというふうに感じたところでございます。

もう1つは、こういった技術というものは、例えば中山間地の活用であるとか、活性化であるとか、やはりそういうところにまで結びつき、つながっていけば、非常に相乗効果があるのかなというふうな感じを持ちました。この資料1でも御紹介をいただきましたけれども、私どもの会員の組合でござ

いますが、函南ちょうざめ企業組合を御紹介をいただいておりますが、ここはチョウザメの高度活用ということで、例えばチョウザメカレーの開発であるとか、チョウザメスモークの商品開発、こんなふうなことも行っておられながら、地域の活性化に結びつけているという好事例である感じがいたします。

こうした海洋魚の新しい商品開発というふうなことが、もしこれからさらに進んでいけば、先ほど観光というお話もございましたが、ガストロノミーツーリズムのようなものの中で、いわゆる食文化の紹介ということで行っていけば、静岡県はよく食の王国というふうに言われておりますので、本県のさらなる魅力の発信というふうなことにもつながっていく。さらには大きなお話をすれば、人の流入にも一役買っていくような、そういう食文化というふうなものをさらにこの研究の中から発展的にそうしたところへも展開がしていければ、今後ますますいいのかなと印象として感じた次第でございます。印象だけでございますが、以上です。

(橋本委員長)

非常にいい視点だと思いますので、御指摘ありがとうございます。食の方も、県の方で別のプロジェクトが動いていますけれども、そこと協力してMaOIもやっていくことになっておりますので、その辺またお知恵をお借りしたいと思えます。よろしいでしょうか。

次に金融機関の方に行ってよろしいでしょうか。静岡銀行の浦田様はいらっしゃいますか。

(浦田委員・静岡銀行地方創生部地方創生グループ長)

こちら静岡銀行の浦田でございます。今回も参加させていただきましてありがとうございます。私どもとしては、お客様方に御案内させていただいて、何か新しいものにつなげられればというところでございます。前回の会合以降も私どもの方から営業店にお伝えをし、営業店の方では、コーディネーター様と一緒にお客様のところへ行かせていただいたという活動の報告を受けております。引き続き、我々銀行員も勉強しながらということになります。地域のお客様にお役に立てるような情報をお届けできるように努めてまいります。本日もありがとうございます。私から以上でございます。

(橋本委員長)

ありがとうございます。引き続きよろしく申し上げます。清水銀行の土屋様、お願いします。

(土屋委員・清水銀行 経営企画部企画担当部長)

清水銀行土屋でございます。ありがとうございます。事業化の成果の方も順調に出ているということで、私ども金融機関としては、今の静岡銀行の浦田様も言われましたけれども、やはりどれだけ私どものお客様の方にこういった情報をお届けできて、事業化につなげる動きができて、それをまた金融機関としてさまざまなサポートの方をさせてもらって、県内の活性化につなげていくということだと思っておりますので、引き続きよろしくお願ひしたいと思えます。

今後の動向の方も、金融機関と連携した企業訪問を実施するというところで書かれていまして、こういったことを、また私どもの方も含めまして、継続してお願ひできればなと思えますので、よろしくお願ひいたします。以上です。

(橋本委員長)

ありがとうございます。では、先ほど御挨拶いただきましたけれども、静清信用金庫の多々良様、お願いします。

(多々良委員・静清信用金庫 経営相談部長)

静清信用の多々良でございます。今日初めて参加ですので、皆様の御意見を聞くというような形で、なかなか私の意見というのもないところがあるんですが、私の今日の感想として、実際このMaOIさんのプロジェクトで事業化された製品が結構あるんだなというのを実感しまして、私も以前経営相談部という部署で産学連携を担当したんですけれども、なかなか事業化するというのはたいへんでした。なのでそういった意味では、経緯ですとか、コーディネーターの方の御尽力、御努力、関係者の方のお力添えがあったんでしょうけれども、これだけ事業化できているというのは非常に素晴らしいのではないかなと正直思いました。

当金庫でも昨年コーディネーターの方と一緒にさせていただきまして、水産加工業者様の成分分析ですとか、新商品開発ですか、そのサポートをいただきまして、その節は本当にありがとうございました。今コロナ禍で、なかなか皆様コロナ禍だけじゃなくて、原料高であったり、円安であったり、人材不足ということで、課題をやっぱり抱えている方が多いんですけれども、やはりそういった新たな事業展開、事業再構築ということを考えていらっしゃるお客様もたくさんいらっしゃいますので、ぜひ今日皆様から頂戴した色々な情報を私どもも静銀様ですとか清水銀行様、しずおか焼津信用金庫様と同様に、私どものお客様の方に還元をさせていただきたいと思っております。本日はありがとうございました。

(橋本委員長)

ありがとうございます。引き続きよろしく願いいたします。続きまして、しずおか焼津信用金庫の岩崎様、お願いします。

(稲森智志氏・しずおか焼津信用金庫調査役(岩崎委員の代理で御出席))

本日は岩崎の方が欠席しておりますので、かわりに出席させて頂いた稲森ですがよろしく願いします。私どもはしずおか焼津信用金庫という名前のおり、焼津という名前が入っております、その中には水産加工業がかなり多くあります。そういった中で、やはりカツオ、マグロという焼津のブランド価値のイメージが若干落ちてきているのかなというような話は聞きます。

そういった中で、静岡県様と、またはMaOI機構様の方で御協力をいただきまして、3月7日にセミナーを開催することになっております。焼津の方で行いますので、こういったセミナーを活用して、お客様の方に例えば新製品の開発とか、そういったお手伝いができればと思っております。また情報等をいただければありがたいなと思っておりますので、よろしく願いいたします。ありがとうございます。

(橋本委員長)

どうもありがとうございます。今日は金融機関の方に色々御意見伺いましたけれども、ぜひまた中小企業、あるいは今日はあまり議論できませんでしたけれども、ベンチャー系の企業が大方MaOIにはアプローチがお互いにできておりますので、そういったところの支援についてもぜひ今後検討、御支援していただきたいと思います。どうもありがとうございます。

では次に、産業支援機関の皆様から御意見をいただきたいと思います。まず静岡県産業振興財団



の三須様、お願いできますでしょうか。

(三須委員・静岡県産業振興財団 副理事長兼専務理事)

静岡県産業振興財団三須でございます。私は1件お話をさせていただきます。今回の1次戦略の見直しで、33ページにベンチャースタートアップの内容の記載を見ました。たいへん私もこれはいいことだというふうに思っております。今回のこのプロジェクトにつきましては、もともと短期的な成果と、それから長期的な成果を求めるということで、特にライフサイエンス分野につきましては、どうしても長期的な取組が必要だろうというふうに思います。

そうした中で考えていきますと、やはり大企業の皆様や、あるいはスタートアップの皆様と、このMaOIの研究シーズをつなぎ合わせていながら、長期的な取組の中で成果なりサービス、商品を出していくということが、恐らく必要なんだろうなというふうに思います。

そういった意味で、やはり大企業のお力を借りるなり、ベンチャースタートアップの力を借りて、長期的な観点から物を生み出していくということは、このMaOIプロジェクトにとってもたいへん重要だろうというふうに思っておりますので、ここにも体制制度の検討というふうに書いてありますが、ぜひどういうふうな形でできれば成果につながっていくのかということをお検討いただければたいへんありがたいというふうに思っております。

我々産業振興財団は同じような取組をしております、大学の研究シーズと、それから県内の企業、特に大企業の皆様とのマッチングの事業をやっておりまして、今年度も大学の研究者を囲んで、企業の研究員の方々とラウンドテーブルという言い方をしておりますが、意見交換を6回やる予定です。そういった中で企業の方と、それから大学のシーズ、大学の教授との間で共同研究契約というものを何件か締結をされているという状況でありますので、長期的な観点からはそういった形をつくって成果につなげていくということがたいへん重要だろうというふうに思っております。引き続きそういったやり方について御検討をいただければたいへんありがたいと思っております。以上です。

(橋本委員長)

ありがとうございます。非常に私の言いたいことを言っていただいて、たいへん感謝しております。先ほど申し上げましたけれども、スタートアップは非常に重要なんですけども、静岡県庁の方はあまりそんなに実績がないといえますか、浜松市なんかは相当進んでいらっしゃるというふうに聞いているんですけども、ちょっとこの県央のところは弱いかなど。

この間ファルマの委員会に私出させていただいたときも、ファルマもベンチャー振興とずっと言っているんですけども、なかなか大きな進展がないということで、その辺が静岡県全体としてはちょっと弱いような気がしますので、今振興財団、それから商工会議所の方も色々御活動されていると聞いておりますので、そういったところと金融機関と協力して、何か新しい体制なり仕組みができたらいいなというふうに考えて、ここに入れていただいたんですけども、ぜひそれをまた相談しながら進めていきたいというふうに考えております。ありがとうございます。

引き続き、フーズ・ヘルスケアオープンイノベーションセンターの望月様、お願いします。

(望月委員・静岡県産業振興財団フーズ・ヘルスケアオープンイノベーションセンター センター長)

フーズ・ヘルスケアオープンイノベーションセンターの望月です。私から3点です。人材育成の話だとか販路の話が出たんですけど、我々フーズのセンターの方で食品加工の関係については、総合食

品学講座というのをやってまして、そこら辺をベースにまた何かお手伝いできればなと思いました。

あとスーパーマーケットトレードショー、来週幕張メッセであるんですけど、これに我々も県のマーケティング課と一緒に県内企業 21 社の出展支援をします。ですから、また MaOI さんの方でそういった企業様があれば、また御紹介いただければなと思っています。また、MaOI さんの方でプラスアルファで予算を取っていただけると、たいへん人気の高い展示商談会なので、結構倍率というか、応募者も多いので、なるべく県として大きなブースを構えられればありがたいなと思っています。

2 点目なんですけど、未利用魚だとか、加工残渣の話が出てて、飼料とか肥料にするみたいな話もあるんですけど、今ちょっと県の方と我々の方でフードテックの話を進めていまして、できれば食品とか、化粧品とか、医薬品まで持っていければいいんですけど、そういった、要するにより付加価値の高いものにアップサイクルしていくというような取組をぜひしたいなと思っていますので、またそこら辺も御協力いただけるとありがたいなというのが第 2 点です。

第 3 点が、これも先ほども企業の皆様からお話があったように、非常に水産資源枯渇というか、資源そのものが少なくなっている部分もありますし、値段が高くなっているところもあって、やはり食品加工業者様からすると、安定供給、安定的に安定した価格で材料が入らないと、今後の経営が非常に厳しくなるということもあって、やはり陸上養殖は非常に重要だなと思っていまして、特に静岡県の場合には水資源は豊富であるし、温暖な気候なんですよ。

ですから、磐田に海幸ゆきのや様、これ関西電力が主な出資というか、メインでやっているんですけど、非常に私はこの静岡県として内水面というか、養殖はもっと力を入れてやるべきだと思っていまして、そのために今植物工場については企業立地の補助金出していると思うんですけど、陸上養殖施設についても県として立地の補助金の対象に僕はすべきだなと思っているんですよ。海幸ゆきのや様の場合には、磐田市は多分補助金出しているんだと思うんですよ。やはり県も協調してぜひやるべきだなと思っているので、また御検討いただければなと思います。以上です。

(橋本委員長)

ありがとうございます。貴重な御提案、フードショーですね、ありがとうございます。最後の陸上養殖なんかは、経済産業部じゃないと思うんですけど、コメントがあれば。

(事務局)

陸上養殖につきましては、生産設備を併設するような場合については補助対象にするという形にはなっております。ただ、本当に養殖施設だけだと、今のところはなっていないものですから、そこは検討課題として持ち帰らせていただければと思います。ありがとうございます。

(橋本委員長)

ありがとうございます。ほかよろしいですか。では、引き続き。

(齋藤委員・東海大学海洋学部長)

今陸上養殖の話題が出たので、ちょっとお話しさせていただきたいんですけども、少し前にも養殖の話が出たかと思いますが、海面養殖に比べまして、陸上養殖ですと、色々管理しやすいとか、先行投資はかなりかかるかもしれませんが、先ほど観光という話題が出たんですけども、海面養殖を観光するのはなかなか難しいんですが、陸上ですと観光施設としても対応しやすいんじゃない

いかなというふうに思います。内陸であっても、人工海水を使えば海水魚も可能です。ぜひ陸上養殖をますます県として広げていただければとよろしく願いいたします。

(橋本委員長)

ありがとうございます。ぜひ東海大学とも連携して進めていただきたいと思います。引き続き、フotonバレーセンターの伊東様、お願いできますでしょうか。

(伊東委員・浜松地域イノベーション推進機構フotonバレーセンター センター長)

伊東です。資料1の説明をお聞きした印象を1つ申し上げます。数値目標の取り扱いについてですが、いろんところで数値目標このぐらいで、今年実績はこうだったから順調に進んでいますみたいな御説明いただきましたが、目標値に比べて2倍、3倍以上の実績が出ているというのが、頑張ったせいなのかもしれないけれども、目標が低過ぎるせいかもしれない。目標に関してきちんと根拠を持った説明ができるようにしていただきたい。

それから、今年度の実績というのを踏まえて、目標は逐次見直していかなければいけないものですので、例えば今年度の目標値に比べて3倍近い成果を上げているようなものがありますよね。それが何か特異的な要因でどれだけの数になっているのか、定常的にそのぐらいの数が見込めるのかというのをきちんと分析して、次年度以降の目標にフィードバックをしていただきたいと思います。

それから、共同研究の件数に数値目標が出ていましたけど、共同研究の件数って、1件当たりの上限の金額と予算で決まっちゃうわけですね。だから、これは数値目標をこうやって掲げるのにふさわしいテーマではなくて、むしろこれは共同研究の結果の質的評価をしてほしいというふうに思います。ただ単純に件数が目標よりも多いので順調ですというのは不十分だというふうに思っております。以上です。

(橋本委員長)

ありがとうございます。逆に厳しい御指摘かもしれません。何か事務局でありますか。

(事務局)

産業イノベーション推進課です。貴重な御意見ありがとうございます。明らかに目標値よりはるかに高いものは想像以上に結果が出たという部分だなというのが正直なところです。一方で、伊東先生のおっしゃるとおり、目標値については随時見直すというのはそのとおりでありますので、引き続き検討させていただきたいと思います。以上でございます。

(橋本委員長)

KPIの立て方も、これMaOIができているときに、まだちょっとよくわからないところで、実現可能性も含めてつくったということだと思いますので、また第2期においては、また全然別の質的なものしかしたら指標が必要かもしれませんので、その辺もまた事務方と御相談して考えたいと思います。次、A0Iの岩城様、よろしく申し上げます。

(岩城委員・アグリオープンイノベーション機構専務理事)

アグリオープンイノベーション機構の岩城です。MaOI機構さんとは連携をずっとやらせていただ

きまして、今日の資料1で産学官金連携による産業応用の推進という中で、柿島養鱒様のホワイト富士山サーモン、これ売り出しますよというそんなお話もありまして、これについては私どものコーディネーターとMaOI機構さんのコーディネーターと共同して御支援申し上げて、それが成果事例になってたいへんありがたいということで、こういう事例を今後ともどんどん出していきたいなというふうに思います。

実は先週も私たちコーディネーター全員MaOI-PARCの方へお邪魔をして、具体的に連携していきましょうというような、単なる顔つなぎではなくて、実際にどのようなやり方をしているのかという結構突っ込んだ議論もさせていただきましたので、そんな中でこれからの具体的な成果がKPIの2倍3倍となるような、そういう形で頑張っていければいいかなと思います。

それから、そういう中でやっぱり実際の事業化が大事だということと、売り先確保が必要だよということで、増元委員からもまとめて出展とか、そういうことでPRできないかというお話がありました。事例をちょっと申し上げますと、実は昨年秋に東部の清水町にサントムーン柿田川というショッピングセンターがありまして、その場所で小さなフードフェアというのがあって、そこへAOIプロジェクトの成果ですよという、MaOIさんでもあるんですけども、フォーラムの会員様を募って、AOIフォーラムの会員様の食品等をまとめてAOIプロジェクトの成果というような形で展示即売会をやったと。数はそんなに多くなかったんですけども、1日である程度の売上げがあったというような、そんなこともトライアルでやってみておりますので、そういうことがフーズさんも含めてMaOIさん、AOI、一緒に連携してそんなことが今後できると、静岡県ブランドが広がっていく可能性が高まるんじゃないかと。ひいては地域の企業の皆様、産業支援につながるんじゃないかなという感じもしておりますので、各機関連携がますます必要になっていくんじゃないかなと思います。

私どもも立ち上がってほぼ丸6年になりますので、そういう研究成果、事業化でやってきた支援した成果がだんだん出てきましたので、今度はそれをさらにもっともっと広げるといふ、いわば第2のステップ、フェーズに入ったかなという感じがしておりますので、その辺をもう少し力を入れて、各支援機関と共同でやっていけたらいいかなと考えています。ぜひ県の方も音頭をとっていただいて進むような形でいければいいかなというふうに思います。お願いします。ありがとうございました。

(橋本委員長)

ありがとうございます。海と陸、農業と水産、非常に今後連携が重要になってくると思いますので、引き続きAOI様とMaOIと連携してやっていただきたいと思います。どうもありがとうございます。

それでは、自治体や団体の方から御意見を頂戴したいと思います。まずは大村様、お願いいたします。

(大村委員・静岡市経済局次長兼商工部長)

いつもお世話になっております。静岡市の経済局次長大村でございます。私どもは行政機関ですから、主に産学官金の連携というところの産業の応用というところに私どもとして力を発揮すべきじゃないかなと思っています。そういう中でこのプロジェクトの中で、数々の助成等をやっていただいて、芽が出てきているものもありますので、そういったところは引き続き継続していただきたいと思いますし、我々もそこにしっかりと一緒になって取り組んでいきたいというふうに思っています。

また産業振興財団の三須副理事長からお話があったとおり、スタートアップにつきましては、私どももたいへん今取り組んでいくべきだというふうに思っています、ベンチャー企業も出てきているということですので、そこは私どもも一緒に取り組ませていただければなと思っています。

またファンドですとか、ベンチャーキャピタルへのつなぎというのが、まだまだ私どもこれからだものですから、全然つなぎを持ってないので、そこは積極的に私どもも展開していきながら、それを皆様と共有していくということ。そして今言いましたように、自治体間での連携が多分必要で、情報交換することによって、また新たなものが生まれてくるのかなというのを改めて思いましたので、そういったところに注意しながらやっていきたいというのが私どもの感想でございます。よろしくお願いします。

(橋本委員長)

自治体間の連携は重要ですね。では、高橋様、お願いします。

(高橋委員・清水みなとまちづくり公民連携協議会 副会長)

今日は清水みなとまちづくり公民連携協議会の高橋という立場で参加させていただいております。幾つかあるんですけども、まず先に思っておりますのが、MaOI 機構がいわゆる静岡というような冠もつけずに、日本を代表する研究拠点、それでここを中心にして世界に発信をしていく拠点であるべきということであつたというふうな理解しております。

そういう MaOI さんがやっている活動と、隣にいる大村様には申し訳ないんですけども、静岡市様との間でかなりダブっているようなことをやっております。海洋産業クラスターのことも、この MaOI 機構がやっていることと何が違うんだろうかなというふうなところが正直あります。そういったような無駄がまず1つあるよねということがある。

それとあわせまして、県の方は清水港の港湾計画の中で、貝島という三保に近いところに研究拠点をつくってほしい。これも世界的な研究拠点をづくり、そこにできれば JAMSTEC であるとか、研究船を停泊させて、研究者もそこへ受け入れてというような大きな絵を描いているわけですけども、一方で静岡市様の方は、海洋文化都市を目指してということで、日の出地区に地球海洋ミュージアムですか、というものをつくらうとしている。その海洋ミュージアムのコンテンツの方は、今日も御登壇されている齋藤先生がいらっしゃる東海大学様と JAMSTEC 様と連絡を取り合いながらやっているんですけども、もっともっと MaOI 機構が研究をしているもの、知見みたいなものをその中に取り入れるというようなことをやってもいいんじゃないかと思っております。

ぜひ MaOI 機構として市の方に働きかけをしていただければなというふうに思っているというのが1つでございます。

それとあわせまして別の立場で静岡商工会議所の仕事をやっている中で、この地域の実は子供たちというのは、こういう環境にありながらあまり海に興味がないんですね。このエリアというのは、インダストリアルポートであって、近くにありながら遠い海ということで、本当に子供たちが海に対する関心が高くありません。

そういうことで色々な活動を商工会議所としてもやっていますけれども、先ほどお話がありましたスルガベイ・シミュレータであるとか、そういったさまざまな研究の途中のものを、先ほど申し上げたようなミュージアムの中でどんどん展開をしていって、地元の子供たち、あるいは訪れた子供たち、あるいは大人も含めまして、海で何が起きているのか、何が今進んでいるんだろうかというこ

とを本当に頻繁に触れることによって、海洋に対する関心、あるいは産業に対する関心というのが高まってくると思いますので、静岡市を説得して、いい形に持って行っていただければなと思うところでございます。以上です。

(橋本委員長)

貴重な御意見ありがとうございます。子供たちの問題、確かにちょっと薄いですよね。人材育成もかなり上の方の人材を意識していて、この辺、専務何かお願いします。

(渡邊 MaOI 機構専務理事兼事務局長)

御指摘ありがとうございます。今の御指摘のところは、常々も御指摘をいただいているところございまして、MaOI のスタートの段階というのが、もとより産業振興という切り口の中で世界的な拠点を目指す、そのコンセプトで進んでおりまして、この戦略もそういったストーリーが前面に出ておりますものの、図らずも私どもが事務局をお預かりをしております「美しく豊かな静岡の海を未来につなぐ会」、こういう活動もしてございます。

そちらはより県民の皆様と海との距離感を縮めていこう、具体的に申しますと、静岡の海が大好きで、海に対してさまざまな活動をする、ごみ拾いをする、保全活動する、あるいは利用してレジャーを楽しんでやる、そういった方々に仲間にしていただきまして、その活動を広く県民の皆様に御紹介している、こういった活動もしているところでもございます。

その一環として、海岸のごみ清掃をしていただく団体様に御支援を申し上げたり、あるいは藻場、磯焼けで海藻の群落、藻場がどんどんなくなっているというふうな状況がある中で、そちらに対して保全活動をされておられるような民間の活動をされている方々とも仲間にしていただいております。その方々がボランティアでその実態について親子教室をやって、広くその実態を知っていただく機会をつくっていらっしゃる、そういった活動の御支援をさせていただいたり、そんなことで、海に関わる産業界の方々、アカデミアの方々と、それから広く一般の県民の皆様の接点を少しずつ持たせていただいております。

ですので、こっちはこっち、そっちはそっちということではなくて、そちらの両方の橋渡しが上手にできるような形も今後視野に入れまして、活動を継続してまいりたいというふうにも思っておりますし、御案内のとおり、静岡市にも「海のみらい静岡友の会」がございまして、既に先輩格で御活動をされておられますので、そちらとも御一緒させていただきたいというふうにも思っております。よろしく願いいたします。

(橋本委員長)

何か色々考えて、子供たちに作文とか、絵画の海の関係のコンクールをやるようなことも、皆で知恵を出したいと思います。どうもありがとうございます。

私の進行が悪くて、あと10分ぐらいしかないんですが、まず名簿の下の方から西沢様、今回3回目ですかね、御意見いただきたいと思います。

(西沢委員・日経BP 総合研究所メディカル・ヘルスラボ客員研究員)

西沢です。短くということで、今日のはごろもさんとか、いなばさん、先ほど御発言されていらっしやいましたけれども、やはり今食品系の商品が色々出ているかと思うんですけれども、ユニークな

商品たくさん出ているかと思うんですが、やはりわかりやすい海の表現になっているような商品とか、もしくはそういうヒットとかを生む体制が確かに必要なという気がしました。やはり食品というのは誰にでもわかる成果でもありますので、ここは非常に重要かと思います。

ある意味、こここのところ食品分野で海産物でヒットしたものという、はごろもさんがいますが、缶詰ですね、特にサバ缶、イワシ缶がヒットしましたけど、あとはカニカマですね、そういう練り製品、このあたりは非常にわかりやすい。練り製品なんかはデザインが重要ですね。つまりこの中にいろんな成分を練り込めるといった性質もあります。日本だけは練り製品の市場沈んでいますけど、海外は右肩上がりに伸びていますし、イスラム圏なんかで非常に引き合いが強くなっています。そういった意味で、そういったわかりやすい商品に静岡の海由来の成分を入れていくというようなことが必要なというような気がいたします。

機能性表示商品の分野でも、水産加工品というのはわかりやすい商品が多いかと思いますが、それでもまだ5,000か6,000ぐらいの量が出ている中で、水産加工品は1%しかありません。ですから、水産物の持っているパワーからすると、もっとあってしかるべきだと思うんですね。例えばこういうところで少し集中的にMaOIの中から特徴のあるものを出していくといった戦略もあるのかなという思いを抱きながら聞いておりました。とりとめない発言ですが、以上です。

(橋本委員長)

どうもありがとうございました。またその辺は個別に御相談に乗っていただければと思います。ありがとうございました。守屋先生は先ほど御発言いただいたので、ここは御遠慮いただいて、JAMSTECの出口先生、お願いします。

(出口委員・海洋研究開発機構 (JAMSTEC) 生命理工学センター長)

JAMSTECの出口です。今日聞かせていただいて、着実に成果が出ているのがよくわかりました。コメントは、成果の見せ方の問題なんですけど、この6つの柱の中で、おのおのちゃんと成果が出てきているので、逆に総花的になって、何か頑張ってるよねというふうにししか見えなくなるという問題もあるので、この6つの柱の中で今年の売りの目玉の成果ですね、何度か控えめに言及されたことがあったと思いますけど、あれは別に控えめにやっていただく必要はないので、多分今年の目玉の成果はこれですというのをもうちょっと明確にされた方がよいかと思いました。

もう1つは、この6つの柱、特にIからV番というのは、おのおの独立に進むわけではなくて、多分IからIVの成果がVで実を結ぶということになっていると思うので、そのあたりの柱の間の関係ですね、間の協調性をうまくプレゼンされると、着実に成果が出てます以上のコメントがこちらとしてもしやすくなるかと思いました。以上です。

(橋本委員長)

ありがとうございます。次は静岡理工科大学の久留島様、お願いできますでしょうか。

(久留島委員・静岡理工科大学事務局長／地方創生担当部長)

静岡理工科大の久留島といいます。今色々お話が出ていて、私の思うところも、かなりほかの委員の方がお話しされていたので、重複してしまうので、一部避けたいとは思いますが、このMaOIさんのいいところは、学術的な基礎研究と実学的な応用研究が世界トップレベルぐらいまで昇華されて、

これがグローバルにも、グローバルというか、ローカル的にもこれを活用されていくというのが一番いいのかなと。そしてその成果が産学応用研究成果につながるというストーリー感であるとする、ぜひこの研究の成果を着実に上げていただければありがたいなというふうに思っています。

2つあったのは、お話があったとおり、やはり MaOI さんだけで全て完結するのではなくて、静岡県は ChaOI さんとか、色々あると思いますけど、お茶だとか木材だとか、そういう振興をやっている県の組織が多々あるわけですので、そことコラボレーションしながら、マリンバイオ産業にどういふふうに資することがあるのかというようなことは、県レベルでもう少しいろんな意見交換をしていたきながら落とし込むということが大切じゃないかなというのが1つ。

それから人材育成、子供の人材育成というのも多々あるわけなんですけど、もしできればやはりマリンバイオ産業にこれから参入しよう、もしくはそういうことに興味関心がある、ただなかなかそういう知見を持った従業員等々がないというようなことがあるかと思えます。

県も最近リカレント、リスキリングでかなりそういう産業界、社会人の教育というところに力を入れ始めたというふうに聞いておりますので、ぜひそういう分野でマリンバイオに資するようなテーマで、ぜひ静岡県の産業界に今勤められている若手にはこだわりませんが、そういう人の人材育成ということについても、県がいいのか、MaOI さんがいいのかわかりませんが、そういうことにも取組をされたらいいのかなというふうには感想は持ちました。以上です。

(橋本委員長)

よい御提案どうもありがとうございます。続きまして、静岡大学の河岸先生、お願いします。

(河岸委員・静岡大学 特別荣誉教授)

人材育成の点で、先ほど齋藤先生が大学生とかその辺の話をおっしゃったけれども、やっぱり例えば静岡大学だと農学部とか理学部だと、大体こういうプロジェクトに関わっているような学生とかは、農学部は特に多いと思うんですけど、例えば出身を言いますと、東海4県から約半分で、それ以外から半分、50%ぐらいはそれ以外から来ているんですけども、結構今県市で人口の流出が多いことは承知していますけれども、よそから来た子たちが残りたいとか、そういうのが結構いるんですよ。

そういうときにこういう組織で、どうしてもどっちかという、大企業を目指す人も多いですけども、でもこういうプロジェクトとかいろんなものやって、今後発表会とか色々あるときでも、オープンラボでも、いずれにせよそういう学生たちがそういう企業の方々とも交流できる場があればいいなと。

具体的に何をすればいいのか、よくわからないですが、1つとしては、最近多いのは、インターンシップを色々企業がやられていますけれども、そういうすごく意欲のあるこういうところに入っているような会社って意欲のある、色々なプロジェクトをやられている方は意欲があると思うので、そういうところに現場を見ると、結構興味を示す学生がいるんじゃないかなと思うので、ぜひそういうような大学が関わっていると、プロジェクトは実際やっているのは学生ですから、何かそういう機会があればいいなと思います。

(橋本委員長)

ありがとうございます。せっかく静岡に来ていただいているんだから、そのままいてほしいですよ



ね。次は東京農工大学の田中先生をお願いします。

(田中委員・東京農工大学工学研究院教授)

東京農工大学の田中剛でございます。今日報告を聞かせていただいて、微生物のライブラリーだったり、いろんなプラットフォームですか、あとはスルガベイ・シミュレータとか、本当にインフラがかなり整って、知見も色々あってうらやましい状況がほぼそろいつつあるなというふうに感じました。

そういった意味で、何度か話題には上がってはいたんですけども、順調に進められていると学術側ではあるんですけども、産官学金の連携プロジェクトとなると、スタートアップの創出みたいな形が幾つかあると、あんなるほどこういったものを生み出したんだというのは、非常にわかりやすいかなというふうには感じました。

私も学内では大学としてスタートアップの関係もあって、その組織にも所属していて、支援する立場なんですけど、やっぱり感じるのは、大学院生はもちろんなんですけど、新しく入ってきて、あまり経験がないような学生にも、スタートアップの意識の高い学生が確実に増えているなというふうには感じます。

やはりこれは国がスタートアップ元年とかというふうに結構打ち出していることもあってかと思うんですけども、いかにこの枠組みがその拠点として使えればいいのかと思いますし、もちろん一方通行ではなくて、地元の若手の実業家の方でも、あるいは会社員の方でも、新しいキャリアパスのあり方としてこの拠点が使えればいいのかと思いますし、連携していますので、専門性が足りないなという実業家の方も大学の専門性をそこで学び直すような双方向の人材交流があるいい拠点になるんじゃないかなと思っておりますので、期待します。以上でございます。

(橋本委員長)

どうもありがとうございます。田中先生も次回ぜひこちらに来ていただいて、色々御貢献をお願いします。矢澤先生、お願いします。

(矢澤委員・MaOI 特任コーディネーター／早稲田大学ナノ・ライフ創新研究機構 規範科学総合研究所 ヘルスフード科学部門 部門長)

早稲田大学の矢澤です。2点あります。先ほどちょっと出ましたけれども、出口のところで産業を広げるという意味で、先ほど御紹介ありましたけど、ウェルネスライフジャパン 2023 実行委員長をやっていますので、こちらの方でブースを出していただければと思いますが、費用も色々かかりますということなんですけど、例えば県だけであるとか、MaOI だけで小さなブース出すと、ほとんど無視されて、スルーされます。

したがって、そこに企業様が幾つかの製品が置いてあるとか、研究成果、あるいは実際の製品の開発途上のことなんかを例えばパネルで掲載してもらおうというようなことで、もう少し派手にわかりやすく団体戦で行く方がいいかなというふうに思っております。

大体失敗する例は、最初に単発で出てきて、全然名刺交換もできない、次年度から来ないというのが多いんですけど、熊本の例はたいへんいい連携がとれましたので、熊本だけではないんですけども、九州全域各県からいろんな製品が出てきて、そこのアワードもとりまして応募していただきました。ということがありますと、まずはその関係者が喜ぶのと、それから名刺交換の名刺の数が増えること、

今もリアルで全部開催されますので、そういう利点がありますので、ぜひそれに限らず、年間4回、5回、6回ぐらいそういった大きな展示会ありますので、御利用いただければというふうに思います。

もう1つは、パブコメに出てきました第1点の知財関係の問題なんですけれども、県の考え方についても書いてあるんですけれども、正直言ってめちゃ遅いと思いますね。こんなことやっていたんじや、みんな出し抜かれますよという感じがしております。

特許に関することがいろんな企業の方たちもまだちゃんと理解できないんじゃないか。例えば物質特許、それから用途特許、それから製法特許というふうに分けていたとしても、僕らの海洋細菌の中でも魚の腸内細菌、もう30年になりますけれども、タカアシガニの腸内細菌を採りに行ったことがあるんですけれども、そういった菌に新しい種類であるならば、菌は物質特許、菌そのものが物質特許になるんですね。

ですので新しい機能なりが見つければ、もうそれは特許申請可能ということで、もう30年以上前からやってきましたということもありますし、もちろん物質特許で梶原先生はたくさん特許を取られていると思いますけれども、そういう特許の申請の仕方として、外注すればお金かかるよねということで躊躇する企業様がおられると思いますが、これは発明者が書く上では、別に外注する必要は全然なくて、どういう書式で書いたらいいかという指導をしてあげればいいんだと思います。

そういった機能が県というか、今回MaOIの会議ですけど、MaOIの機能としてそういうものがありますよということであれば、ベンチャーでも、ある技術を持っていて、特許申請までお手伝いします。申請費用は安いですから、審査請求のところで少しお金がかかりますけれども、本当に意味があれば審査請求するでしょうし、そういうようなことがありますので、この知財関係に関しては、もっと簡単に皆様が考えている以上に安く簡単にできますよということの情報を発信すると、恐らくいろんなまた御相談ごとがある企業様が増えて、さらにその指導が行き渡るんじゃないかなというふうに思っております。この2点です。以上です。

(橋本委員長)

どうもありがとうございます。1点目は県とも相談して、オール静岡で進めていただきたいと思います。2点目は、私は一応知財の専門家でありますので、受け止めて今後検討したいと思います。最後に早稲田大学竹山先生、お願いします。

(竹山・早稲田大学 理工学術院 教授／マリンバイオテクノロジー学会 理事)

本日のお話を伺っていて、とても複雑だという印象を受けました。組織が色々ある状況なので、共有するゴールに向かって効果的な横展開の仕組みが必要かと感じます。

現時点で、MaOIが中心的な役割を担って進めている部分もあるかと思いますが、全てを把握して、コーディネート、ブリッジ等々には、MaOIの今の規模では厳しいところかと思います。今後、さらなる大きなミッションのためにもハブ機関を強化する必要がありそれをMaOIに置くのであれば、機能不全に陥らないような規模への拡充をもって他機関との連携を有機的にすることが必須かと思います。組織同士で機能のオーバーラップは良いですが、情報の共有をすることで機能を倍増化できると思います。

(橋本委員長)

ありがとうございます。大分時間が過ぎましたので、簡単にまとめをしたいと思いますが、まず

MaOI として今後の取組については、また渡邊専務から御紹介があると思いますが、1つ私が紹介したいのは、5月13日の土曜日なんですけれども、今「ブルーエコノミー駿河湾国際ラウンドテーブル」というのを検討してございまして、これはオープンなシンポジウムではなくて、クローズのラウンドテーブルなんですけれども、そこでいろんな、ここにおられる委員の何人かも御参加いただくつもりなんですけれども、世界と一緒に、今後のブルーエコノミーに関する提言をまとめようということで、実は昨日、今日と地元の衆議院議員の上川陽子議員等と御相談をしております、あと霞ヶ関の皆様にも御説明をして、御協力をお願いしたところでございまして、そういう MaOI だけでできるような話ではございませんが、世界に発信するという今日この場の議論の中でありましてとおりの、第一歩としてやっていきたいというふうに思います。また進捗については御報告できると思います。

今日、御意見がいろんな視点でございました。もう前回やったので、ほとんど意見がないのかと思ったら、時間が足りなくなるくらい皆様から御意見いただきましたが、特に冒頭のフードのマーケティングの問題とか、それからちょっと答えづらい市と県の関係重複とか、それからあと評価の目標についての見直しの御提案もございました。

それから今申し上げたような世界的なネットワークについても、ちょっと弱いところがありますので、今後進めていくべきだなというふうに感じました。

それからあと県内のほかの機関との連携、これは非常に大事ですし、ある程度進んではいるんですけれども、より強化すべきだなということを感じました。

それからあと人材育成ですね。これは子供から大学生、それから社会人に至るまで、幾つか御指摘がありましたので、これはやはりこの MaOI プロジェクトの中の非常に重要な柱でございまして、そこもどんどん強化していきたいと思っておりますし、ここに御参加の教育機関の大学の方々にもぜひ御協力をいただきたいなと思っております。

それから知財についてはちょっと私の宿題としてやらさせていただきます。

最後に、私もコメントしましたスタートアップですね、これはやはりまだまだ体制が弱いなという感じがいたしますので、次期に向けて検討を県と一緒にさせていただきたいというふうに思っております。

非常に簡単な総括ですけれども、宿題をたくさんもらいましたので、これを受けて、また次の展開に向けて中で議論しながら、またお諮りしたいと思います。これで司会を県の方に。どうもありがとうございます。

#### 4 閉 会

(事務局)

橋本委員長ありがとうございました。ただいま橋本委員長からもございましたけれども、本日多くの御意見、また御提案いただいたと感じております。そうしたことに關しましては、今後また中間評価、もしくは今後の取組、こちらの方に反映してまいりたいと考えております。またそのときにはお諮りをしていくようなこともございます。戦略計画の中間見直しについては、今回いただいた御意見も反映しながら、3月に公表したいと考えております。

それでは、最後になりますけれども、経済産業部長増田から一言御挨拶を申し上げます。

(増田 静岡県経済産業部長)

本日は長時間にわたり御審議、誠にありがとうございました。委員の皆様から多岐にわたる御意見、お褒めの言葉、応援の言葉とあわせて、若干耳の痛いお話もいただいたとっております。そういう中で、今日のお話、MaOI 機構、MaOI プロジェクトについての御意見ということで皆様から色々いただいたのですが、竹山先生からもお話あったとおり、MaOI だけで受け止められるのかなと私も感じておりました。例えばですね、陸上養殖の話で、水産行政との調整という話になりますと、私も経済産業部の中で水産行政やっている部署もありますし、そこには話をしたいと思えますし、ベンチャー、スタートアップの関係も、これまで商工業中心に担当部局でやっていましたが、実は来年度からこの MaOI を担当している産業イノベーション推進課の方で一元的にスタートアップの支援をやるということで、若干予算をつけて強化をしてやっていくことになっております。MaOI 機構と一緒にプロジェクトを推進していくところがスタートアップの支援も同じ課でやりますので、そこは一体的にやっていきたいなど。他にも、例えば農産品とか加工品の販路開拓の話もいただいたんですけども、県の中でマーケティング戦略をつくっておられて、所掌しているマーケティング課も経済産業部にございます。各プロジェクトで生んだ成果品をどう売り込んでいくかというのは、機構だけの話でなく、県全体、特に経済産業部の中で一体的に考えていかなければならないという思いを強くしました。いずれにしましても、今日の会議は MaOI の戦略計画、MaOI プロジェクトの推進ということでいただいたのですが、もちろん MaOI プロジェクトをしっかりやりながら、それをとりまくフォローも経済産業部としてしっかりやっていきたいと思えます。引き続き、御指導御鞭撻のほど、よろしくお願ひします。

(事務局)

ありがとうございました。それでは MaOI 機構から何かお知らせございますか。

(渡邊 MaOI 機構専務理事兼事務局長)

活発な御意見ありがとうございました。皆様のお声は MaOI 機構として受け止めまして、県とも御相談しながら、引き続き努めてまいりたいと思えます。

ちなみに、先程来、例えば陸上養殖の話が出ております。県内では、東部のプロキシマー社、中部では三保サーモンなど、県の中で比較的大きな規模での陸上養殖事業が進んでおり、全国的には、めずらしいのではないかと思います。

また、ブルーカーボンの話題もこれからどんどん盛んになっていくかと思えます。そうした新しい話題について、行政としても色々御対応いただいているとも思えますが、現場を抱えている我々としては、そうした先進的な取組をしている企業様と既にコンタクトをさせていただいておられて、どのようなお手伝いができるのか、一緒にできることがあるのか、といったコミュニケーションは率先して続けてまいりたいと思えます。

ベンチャー企業様についても、県外の企業様がこういうことやってみたい、その実証フィールドを捜しているという話のつながりの中で御縁ができていこともあります。そのあたりはまさに地元の関係の皆様とのつながりが重要でございますので、そういうことを今後も継続してまいりたいと思っております。

それらの情報を県の皆様とも共有しまして静岡県全体としての盛り上がりにつなげていきたいと思えます。

そうした中で、皆様の御協力をいただきたいのですが、会員の皆様を中心にした MaOI サロンとい

う勉強会を継続して開催しております。次回2月27日にネオファーマージャパン株式会社様で開発しておられるアミノレブリン酸について御説明いただく予定です。水産関連で有用に活用できるのではないかという観点から、御紹介をいただけることとなっております。御興味ある方はぜひ御参画をお願いします。

3月には一般の方にも幅広く聞いていただくという観点で開催しているMaOIセミナーを予定しています。未利用というと魚に失礼ですが、活用できていないお魚をどう上手に活用できるのかを検討いただいている東海大学の清水先生の御講演を賜る予定です。ぜひ、御参加いただければと思います。引き続き、御指導のほどよろしく願いいたします。

(事務局)

以上をもちまして、令和4年度第2回MaOIプロジェクト戦略推進委員会を終了いたします。長時間ありがとうございました。